

北海道におけるGX関連の支援状況

2024.1.15

経済産業省 北海道経済産業局

■ GX・半導体製造・デジタルインフラ整備に対する主な支援（1）

海底送電線（200万kW）の新設

・北海道～本州間の海底直流送電等について、**2030年度の新設を目指して具体的な整備計画の検討を開始。**
経産省では、2021年度から2023年度までに**87億円を支援。**
※2050年までに日本海側に400万kW、太平洋側に200万kW新設

再エネ100%のデータセンター【さくらインターネット】

2023年6月、**生成AIの計算能力拡充に向けたクラウドインフラ整備**を発表。
3年間で130億円規模の投資計画（うち、経産省で**最大約68億円を補助**）

次世代半導体の量産製造拠点【Rapidus】

・次世代半導体の量産製造拠点を狙うため、国内トップの技術者が集結し、Rapidus社を設立。**2020年代後半での事業化が目標。**
・政府は2022年度、2023年度にそれぞれ**上限700億円、2600億の支援を決定。**今後も追加の支援を予定。

国内最大級のデータセンター整備へ【ソフトバンク】

・**生成AIの開発などに活用**する国内最大規模となる新たなデータセンターを段階的に整備する計画。
・経産省では、2026年度に稼働する施設の土地造成、建屋及びサーバーの整備などにかかる総額650億円超の費用のうち、**最大で300億円を補助。**

先進的CCS支援事業【苫小牧地域CCS事業】

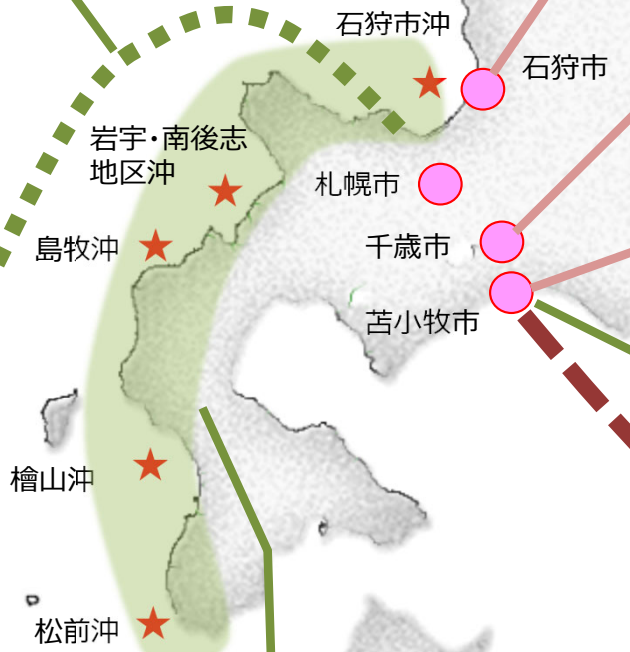
・2030年のCCS事業開始に向け、先進的なCCS事業を支援。
・苫小牧地域では、CO2を資源として再利用する「CCU/カーボンリサイクル」やバイオマス発電とCCSを組み合わせた「BECCS」とのCO2輸送パイプラインの接続も視野に入れた、CCUS事業を推進する。
・**2023年度は全国7事業合計で35億円を支援。**

洋上風力発電の導入

・2023年5月、**道内5区域が再エネ海域利用法に基づく「有望区域」に整理。**
・2023年10月、NEDOのグリーンイノベーション基金フェーズ2（浮体式実証）の実施候補区域に石狩市浜益沖、岩宇・南後志地区沖が選定。

国際海底ケーブルの構想（総務省予算）

・日米欧の企業が進める北極海経由の海底ケーブルプロジェクト（日本、アラスカ、アイルランド、ノルウェーを結ぶ。2026年完成予定）において、北海道がケーブル陸揚げ局の候補地に。
・欧州や北米との地理的接近性を活かしたオセアニアとの海底通信ケーブルの接続により、アジアでのデジタル・通信ハブを目指す。



■GX・半導体製造・デジタルインフラ整備に対する主な支援（2）

◆ 省エネ関連

- 省エネルギー投資促進支援・2022年度・79件・約4.6億円

◆ 水素関連

- 水電解装置導入支援・2021年度・1件・約5.6億円

【NEDO実証事業】

- 水素とCCUを活用した「鉄の街」でのカーボンニュートラルな街造りに関する調査（室蘭市）
- 大規模グリーンサプライチェーン構築調査（苫小牧市）
- 新千歳空港を中心とした水素需要の可能性調査（千歳市）
- 石炭地下ガス化による水素製造（三笠市）
- 風力発電の余剰電力を利用した水素製造（苫前町）
- 未利用天然ガスを活用した水素製造実証（豊富町）

◆ 送電・系統用蓄電池関連

- 北部送電線の増強支援・2013～2023年度・約434億円
- 蓄電池等導入支援・2021～2022年度・7件・約95億円
- 混雑緩和型蓄電システム等の導入に係る事前検討実証事業・2023年度・1件・補助額非公表

◆ 地熱・バイオマス発電関連

- 地熱開発理解促進支援・2019～2023年度・5件・約1億円
- 資源量調査支援・2019～2023年度・7件・補助額非公表
（ニセコ町・蘭越町、京極町、留寿都村、函館市(恵山)、鹿部町、八雲町(熊石)、弟子屈町(湯沼・アトサヌプリ))

【NEDO実証事業】

- 家畜糞尿バイオガスのメタノール・ギ酸変換技術の開発支援・2021～2022年度（興部町）
- 家畜ふん尿由来のバイオガスエネルギーを利用した酪農地域自立システムの実証支援
・2018～2020年度（釧路市 阿寒）